

ぶつきょうつうしん しゃか しょうとくたいし がつ
仏教通信 「お釈迦さまと聖徳太子」 4月

こうのだいじょしがくいん まいとし がつ ぶつきょう かいそ しゃか たんじょう いわ はなまつ わこく きょうしゅ にほん しゃか
国府台女子学院では、毎年4月に仏教の開祖であるお釈迦さまの誕生日を祝う「花祭り」と、「和国の教主(日本のお釈迦

さま)」と尊ばれる聖徳太子を讃える「聖徳太子奉讃会」を開催しています。

しゃか きげんぜん せいきごろ こく おうじ たんじょう い つた
まず、お釈迦さまは、紀元前5世紀頃にインドのカピラ国の王子として誕生したゴータマ・シッタッタのことで、言い伝

えてでは35歳の時に悟りを開き仏陀(ブツダ)になったと言われており、ブツダとは「真理に目覚めた者」という意味になりま

す。日本では、ゴータマ・ブツダが釈迦族出身であることから「お釈迦さま」と呼んだり、釈迦族の尊い方という意味で「釈尊

よ と呼んだりしています。そのお釈迦さまが、ルンビニーの花園で誕生された時、天人たちが甘露の雨を降らせ、花を咲き散

らせたという伝説から、お釈迦さまの誕生日である4月8日には、誕生仏(赤ちゃんのブツダ)をまつって甘茶をそそぎ、

はな かざ いわ
たくさんのお花を飾ってお祝いするようになりました。

つぎ しょうとくたいし うまやどのおうじ しゃか な ねんご とお はな にほん う
次に、聖徳太子(厩戸皇子)は、お釈迦さまがお亡くなりになって1000年後、インドから遠く離れた日本に生まれました。

ぶつきょう ちえ じひ おし りかい よ むじょう えいえんふめつ すべ つね へんか
仏教の「智慧と慈悲」の教えを理解し「この世は無常(永遠不滅のものはなく、全てのものは常に変化しつづけること)であ

ることを見極め、偏見を持たずに人や世界を見てみよう」という信条を持った人物でした。例えば、激しい身分差別や偏見

のあった古代インドで、お釈迦さまは「生まれを問うことなかれ、行いを問え」と説き、自らも王位を捨てて身分差別を否定

しました。そして、インド・中国・朝鮮を渡って日本へ伝来した仏教の教えを、聖徳太子は正しく理解し、「我かなら

ずしも聖に非ず、彼かならずしも愚かに非ず、共に是れ凡夫のみ(自分がいつも正しいわけではない。相手が愚かで間違っ

ているわけでもない。お互いに間違ふことのある心の弱い人間にすぎない)」と、仏教思想を根底においた『十七条憲法』

さくせい たよう いけん しそう みと あ こうへい しゃかい
を作成し、多様な意見や思想を認め合う公平な社会をめざしました。

じぶん かんが ちが あいて ゆる じぶんたち こと しゅうかん ぶんか ようし も ひと みと
「自分と考の違う相手は許せない」「自分達と異なる習慣・文化・容姿を持つ人は認めない」

かたよ かんが も あらそ う しゃか
という偏った考を持ってしまうと争いが生まれてしまいます。だからこそ、お釈迦さまや

しょうとくたいし むじょう せかい みぬ ちえ め はぐく おも ころ じひ ひと
聖徳太子は、無常の世界を見抜く「智慧」の目を育み、思いやりの心の「慈悲」をもって人に

せつ と げんだい い わたし しゃか おし しょうとくたいし かんが
接することを説いたのです。現代に生きる私達も、お釈迦さまの教えや聖徳太子の考を

まな じぶん なか へんけん にく き じせい い かた
学ぶことで、自分の中にある「偏見」や「憎しみ」「ねたみ」に気づき、自省できる生き方ができ

るのではないのでしょうか。

がっしょう
合掌

はなまつ がつ にち しょうとくたいしほうさんえ がつ にち きん
花祭りは4月13日(土)、聖徳太子奉讃会は4月19日(金)におこないます。

しょうがくぶらいはいいいんかい
小学部礼拝委員会

